

愛媛県ノーリフティングケア 普及啓発事業



社会福祉法人 内子町社会福祉協議会
内子町老人デイサービスセンターたんぽぽ

内子町老人デイサービスセンターたんぽぽ 事業所概要

- ▶ 所在地：喜多郡内子町五十崎
- ▶ 介護サービスの種類：地域密着型通所介護
- ▶ 定 員：15名
- ▶ 実人員：27名（令和7年2月1日現在）
- ▶ 介護度別：総合事業【6名】 要支援1【5名】 要支援2【2名】
要介護1【4名】 要介護2【6名】 要介護3【1名】
要介護4【0名】 要介護5【2名】（令和7年2月1日現在）
- ▶ 職 員：9名（常勤4名）
- ▶ 職員年齢別：30代【2名】 40代【3名】 50代【1名】
60代【3名】



ノーリフティングケア普及啓発事業

申請理由

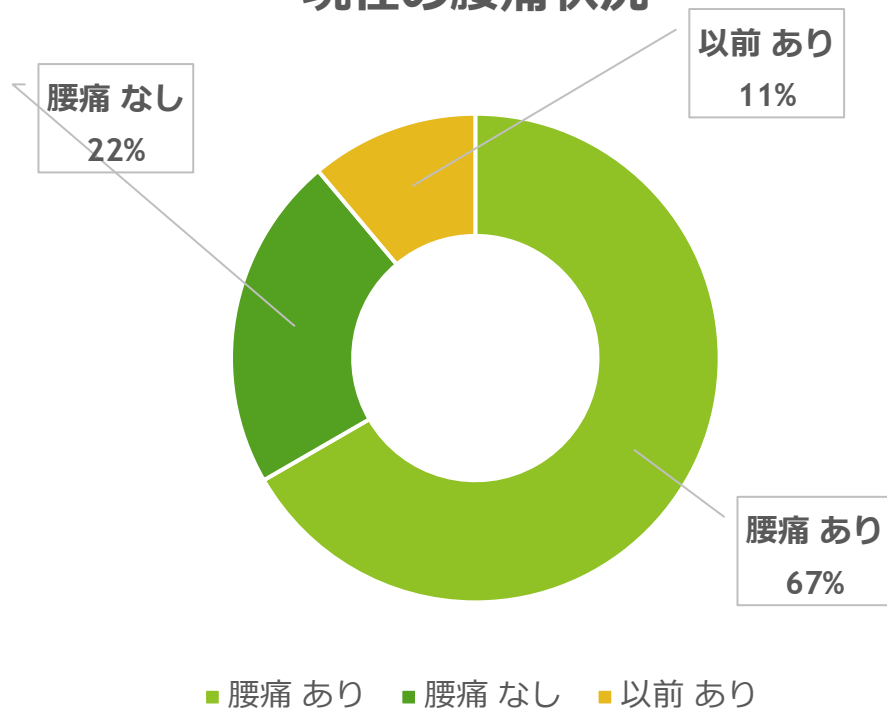
- ◆「持ち上げる」「身体をねじる」といった介護動作を無意識に行っていたことによる腰痛者の増加。
- ◆介助中、利用者の不安そうな表情や身体の強張りを感じる事が多くなっていた。
- ◆家族介護の負担が増えていること、安心できない日々を過ごしている現状を目の当たりにした。



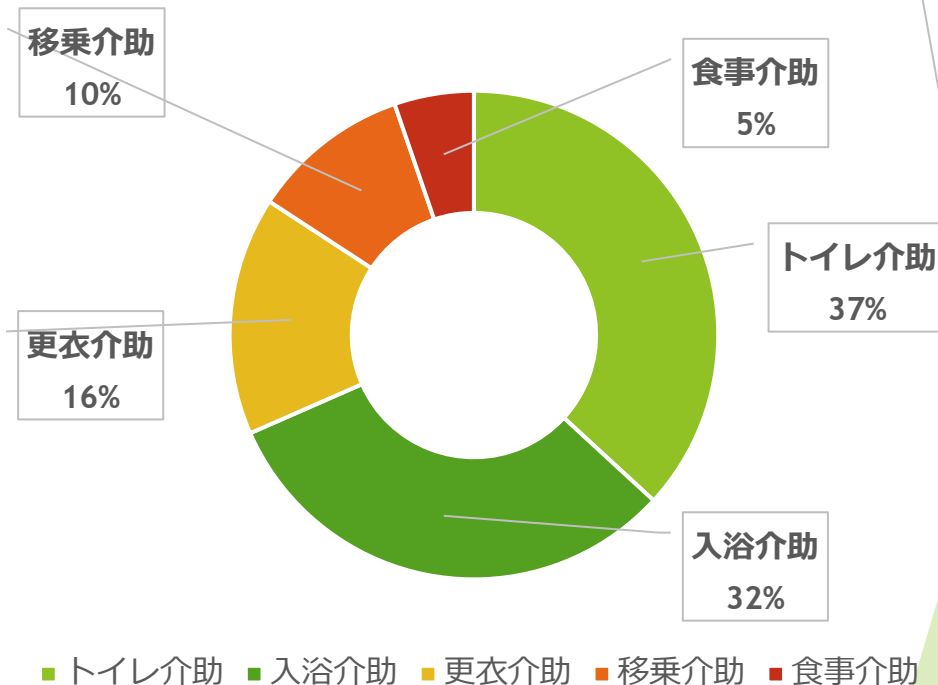
- ◇ 私たちにできることは無いのか・・・。利用者、家族、介護者が安全・安心に過ごせるよう「ノーリフティングケア」について学びたいと申請に至った。

導入前アンケートによる分析

現在の腰痛状況



負担の大きい介助場面



- ◆腰痛者は全体の**7割**と多い。
- ◆負担の大きい介助場面では「**トイレ介助**」「**入浴介助**」が多く、在宅介護を考慮した介助方法により、「**持ち上げる**」「**身体をねじる**」といった負担の大きい介助方法をとらざるを得ない。

見えてきた課題

- ◆施設の**老朽化**。ハード面の**劣化**。
- ◆在宅介護と現場介護の互換性を意識するあまり、**負担の大きい介助方法**を選ばざるを得ない。
- ◆法人内の介護支援専門員、訪問介護員との**連携の希薄化**。
- ◆在宅介護の**不安**を耳にしているにもかかわらず**的確な助言ができない**ことが多い。
- ◆**高額な福祉用具・機器**の導入はできない。また、施設が小規模な為、リフト等の**置き場所を要する機器**の導入は検討できない。

取 組 内 容

- ◆事業所内で「**ノーリフティングケア**」について意見交換を行い、**事業所全体**で理解を深めていく。
- ◆協力事業所でのアドバイス研修を生かし、事業所内で研修を行い、**事業所全体での方針**を協議・共有する。
- ◆法人内の介護支援専門員等の他職種に「**ノーリフティングケア**」について理解を深めてもらいたいと声掛けを行い、個別研修への参加案内を行う。⇒**参加!!**
- ◆「**トータルセーフティケア**」の意義を理解し、通所介護職員、介護支援専門員、訪問介護員と在宅介護の**包括的ケア**について意見交換を行う。👉**現在ココ!!**

個別研修 (1回目)



- ◇介護者の**姿勢**と**身体**の**使い方**についての講習。
- ◇利用者に合った福祉用具の選択、介護者の負担の少ない姿勢や動作について、福祉用具の**メリット**と**リスク**についてを通所介護職員、**介護支援専門員**、**訪問介護員18名**で学ぶ。
- ◇**在宅介護に反映していく**ためにはどうすれば良いのかを全体で考えるきっかけとなる。

個別研修 (2回目)



- ◇姿勢の見方についての講習。(介護支援専門員 他14名参加)
- ◇姿勢を整える前段階として、姿勢の見方の理解、重さの流れを意識できるようになることの重要性を学ぶ。
- ◇在宅介護における24時間の姿勢管理の重要性を理解する。

事業所内ラウンド (ポジショニング)



◇身体が安定し、**リラックス**することができた。**表情も和らぎ、自然と笑顔**になる。身体の**緊張も解け**、手の緊張も和らぎ手を開くことができた。



◇身体の緊張が和らぎ、動きを出す際に**介護者の負担軽減**に繋がった。**両膝の緊張が和らいだ**。

個別研修 (3回目)



- ◇姿勢の整え方についての講習。(介護支援専門員 他16名参加)
- ◇仰臥位・座位の姿勢と重さの流れを見て、実際に姿勢を整えることができる。
- ◇姿勢を整える際に活用できる福祉用具の紹介、使い方を学び、習熟していくことの重要性を学ぶ。

改善点 (実施すべき事項)

1. **PDCAサイクル**（計画→実行→評価→改善）の仕組みを確立する。
2. **手順化、明文化及び記録化**すること。
3. **危険性**又は**有害性**の調査及びその結果に基づく措置をとること。
4. 上記を**事業所全体で推進**すること。



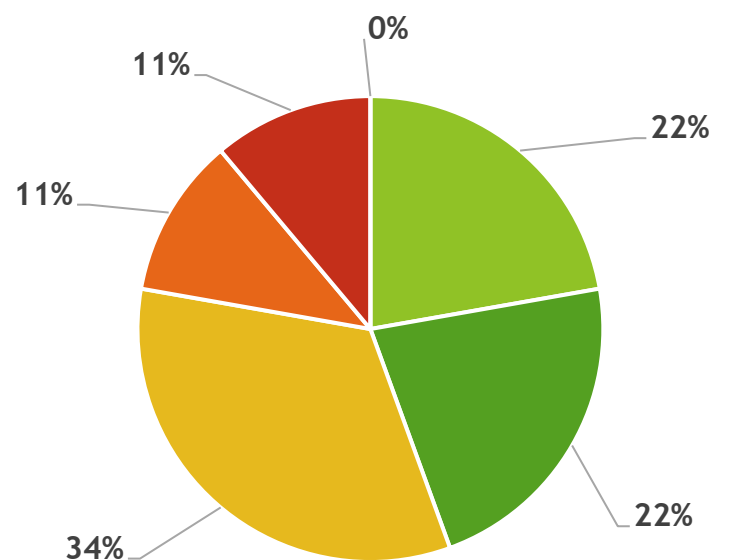
無理なく、できることから始めていく。
まずは、職員の意識改革が重要。

今後に向けた取組

- ◇介護しやすく、尚且つ利用者が快適に生活できる**職場環境の整備**。
- ◇「**持ち上げる**」「**身体をねじる**」等の動作を極力軽減していく為の介護動作の習熟、福祉用具の有効活用についての習熟についてを**事業所全体で推進**していく。
- ◇在宅介護の状況を把握し、**適宜必要な助言**が行えるよう、必要に応じた課内ミーティング、課内研修の開催を検討していく。
- ◇繋がりのできた**協力事業所**、同法人内の**介護支援専門員**、**訪問介護員**と連携を図り、「**トータルセーフティケア**」について、様々な視点で情報共有、情報交換を持てる仕組みを構築していく。

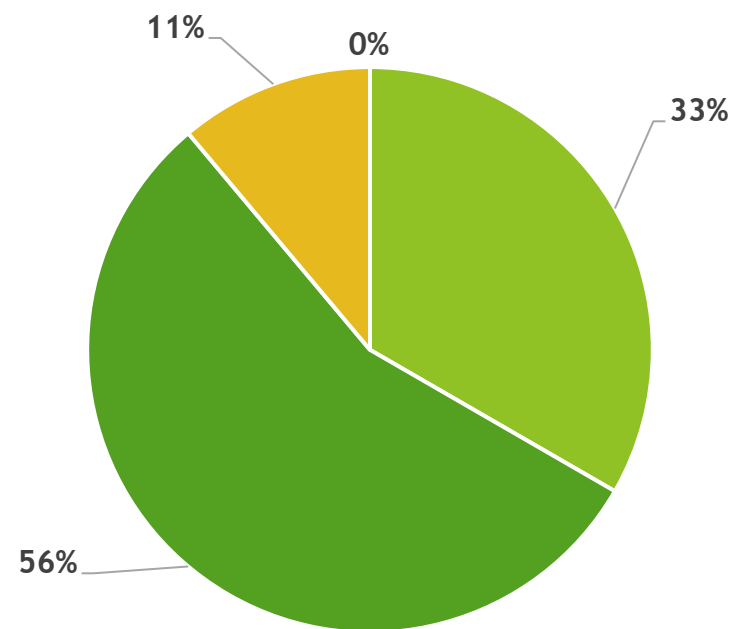
導入後アンケートによる分析①

ノーリフティングケア導入後の腰痛状況について



- まったく痛まない
- 仕事中や就寝時間に腰が重い、腰が疲れやすい
- 以前、腰痛になったことがあるが、再発しておらず、治療している
- 以前、腰痛になったことがあり、再発経験もあるが現在は治療している
- 時々痛くなる
- 現在腰痛あり、常に痛い

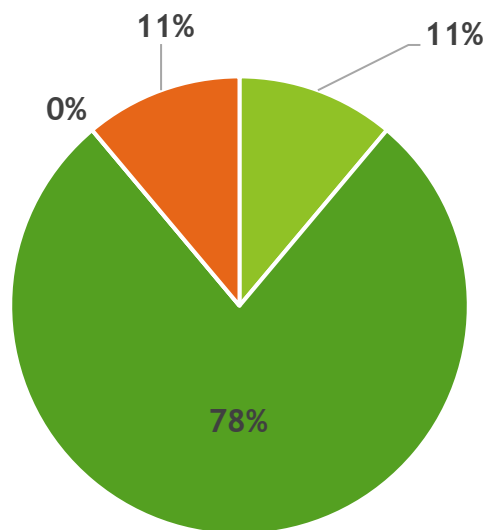
ノーリフティングケアを導入したことによって、身体的負担は軽減したと思いますか。



- 軽減した
- やや軽減した
- ほとんど軽減しなかった
- 全く軽減しなかった

導入後アンケートによる分析②

ノーリフティングケアの研修
で学んだことは、日常業務に
反映できていますか。



- 内容を理解し、実践できるようになった
- 内容を理解し、少しずつ実践できている
- 内容が理解できておらず、実践もできていない
- 内容は理解できているが、実践には至っていない

※分 析

- ◇福祉用具・機器の導入はできていないが、意識の変化が大きく、介護姿勢の工夫やストレッチの導入等、腰痛への負担軽減を図ることができている。
- ◇利用者の姿勢に気を配ることができるようになっている。利用者のポジショニングについて、意見交換する場面が増えている。
- ◇介護支援専門員、訪問介護員からも「ノーリフティングケア」について理解を深めていきたいという意見が増え、積極的な意見交換ができるようになっている。

事業所全体としての ノーリフティングケアのイメージ

◇利用中の**介助方法**や
ポジショニングにつ
いて、事業所内で共
有し、改善へ向け協
議を重ねる。



◇利用中の様子を**介護
支援専門員、訪問介
護員**と情報共有し、
改善案を検討。



◇検討した改善案を実
行し、キチンと**評価**
、双方に**安全・安心**
な介助方法等を再度
検討する。



◇在宅**介護**の場面で活
用できることを家族
に伝える。ポジショ
ニングや福祉用具の
活用について**助言**が
できる。



◇在宅介護の様子を**ヒ
アリング**し、改善に
至ったか等の変化を
調査。新たな課題や
改善点を洗い出して
いく。



PDCAサイクル

ノーリフティングケアを 継続していくためには

- ◇ **組織体制を整えていく**こと。事業所全体で**課題解決**に向け取り組んでいくことが継続に繋がる。
- ◇ ノーリフティングケアの「**考え方**」を事業所全体で共有していくこと。「**無理をしない・安全で安心な介護**」の実現を目指す。
- ◇ ノーリフティングケア導入当初から「**頑張りすぎないと**」。「**なぜ変える必要があるのか**」「**どうしてその方法を取るのか**」を理解し、納得していきながら事業所全体で取り組むことができるよう連携を図る。

ご清聴ありがとうございました。

100畳凧あげ



出世凧

